

(18) 岩本の一里塚跡

岩本の一里塚は、起点である会津城下「大町札の辻」から九里（約三七km）の位置にあたり、現在の倉地区と落合集落を結ぶ八幡橋付近、国・県道が交差する段丘下であつたと云われています。

以前には旧街道沿いに建っていたと思われる数多くの馬頭観世音碑が、現在は国道沿いに集められて祀られています。中でも、丸彫りの馬の上に蓮弁をのせ、その上に三面六臂を頂く馬頭観世音像は、年代は刻まれていませんが往時を偲ばせるものがあります。

(19) 長野の渡し場跡

榎原宿から田島宿へと至る近世の下野街道は、大川左岸が岩山のため倉村より大川へ下り、大川を上流に進んでこの崖下付近より舟渡しで川向かいに渡りました。

下野街道の舟渡し場は会津若松を出るとすぐの「上米塚」と、この地「長野の渡し」それに下野国に入って「高德」の三ヶ所がありました。

寛文十年（一六七〇）の上米塚の定書には、船賃は十才以上が四文、荷物は一駄につき六文と記されています。

